

# ○南丹市当事者団体ネットワークからの課題提示について

資料①

提示団体：「南丹市精神保健福祉推進家族会 南丹つぼみ会」

【課題とされている事項】

生活	生活支援	○成人している独居の人で、車の運転ができない場合の買い物などの外出支援
	引きこもり支援	○グループホーム退所者が1人暮らしをする場合の家賃補助 ※障害年金のみでは生活が困難であり、家族の援助を必要としている現状
	家族（本人）支援	○引きこもりの人への外出支援、引きこもり本人や家族へのアプローチ  ○市が把握する引きこもり家庭への声かけ、集って語り合う機会の創出 ※家族も地域の中で孤独になり、将来を悲観
福祉サービス	相談支援専門員	○ピアサポーターなどの制度の充実  ○計画相談支援のニーズに対応できる質と量の確保
	自立生活援助サービス	○相談支援専門員の過重労働の解消  ○南丹圏域におけるサービス提供事業所がない（京都府内で4箇所のみ） ※精神障がい者には、この「見守りサービス」が必要
就労	雇用機会の提供	○体調が不安定でも能力の高い精神障がい者が、作業所だけでなくもっと柔軟に働ける機会の提供と賃金のアップ
		○雇用前提でなく、体験就労ができる企業の増加 ※障害者雇用促進法の対象企業には、雇用が義務付けられている背景あり

権利擁護

成年後見体制

○活動していない市民後見人、法人後見人（社協）の早期活動開始  
※市の養成講座修了者は18人。その貴重な人材の活動が望まれる

○市民後見人の2人体制による活動  
※業務負担が大きく、法人後見人のように2人体制が望まれる

判断能力がない人への支援

○成年後見制度を利用しない人への支援  
※日常的な見守り、生活に必要な手続きなどの支援が必要

○医療機関、福祉施設、金融機関が連携した支援策

その他

行政との関わり

○保健所や臨床心理士など、専門的知識を持つ人からの積極的な支援

○こころの健康推進員と家族会との接触

災害時の安全

○災害時における福祉避難所の利用体制の確保  
※災害時は、福祉避難所がいつでも利用できることが望まれる

団体からの意見

○最近では障がいによる格差が広がり、差別意識が強くなっていると感じることから、学校や家庭において、あらゆる差別をしない・させない社会教育が必要

○最近の実態として、社協職員が青年の障がい者への支援に関わってくれていることに感謝している

○作業所付近にグループホームができて作業所を利用しない人も多い  
その要因として、工賃問題や、身体・知的・精神の3障がい一緒に作業をすることに問題があるのかも

○団体活動における定例会など、会場費用の負担が苦しい